

JAPICとは

一般社団法人日本プロジェクト産業協議会（Japan Project-Industry Council : JAPIC）は、1979年に産業界の複合組織として設立されました。以来、民間諸産業による業際的協力と産官学民政の交流を通じて叡智を結集し、国民の安全安心と持続可能で豊かな社会づくりに向けて、産業・経済、環境・資源・エネルギー、教育、国土・防災・都市・地域計画等、立国の根幹に関わる事項の研究並びに実現活動を行うことにより、国家的諸課題の解決に寄与し、日本の明るい未来を創生することを目指して活動して参りました。

現在 37 業種 205 社の企業、地方自治体、団体、NPO 等から構成され、年間延べ 1 万人の実務家が公益的な立場から、1. プロジェクトの企画・実現、2. 政府関係機関への政策提言、3. 産官学民政交流のためのプラットホーム形成等活動を行っています。

開設趣旨

世界は冷戦終結以降、新興国の急成長や情報通信技術の目覚しい進歩、金融市場のボーダレス化などにより、大交流・大競争時代にシフトしています（グローバル化）。

この時代を生き抜く学生は、「人・社会・国に尽くす、更には国際社会に貢献する」という高い志を持って研鑽に励み、一方でこの講義で説く『社会基礎学』の習得が必要不可欠と考えます。本リレー講義では、社会基礎学とは何かを探求し、学部1、2年生を主対象に、今後の大学生活で身に付けるべき知識、教養、想像力や構想力向上をサポートします。

具体的には以下の13分野にプライオリティを置き、産業界・官界・政界のトップリーダーがリレー講義を実施、皆さんとともに考えます。

①「グローバル化」、②「資源・エネルギー」、③「インフラ」、④「震災・防災」、⑤「政治・政策」、⑥「産業」、
⑦「安全保障」、⑧「金融」、⑨「技術」、⑩「一次産業」、⑪「海外輸出」、⑫「アジア」、⑬「成長戦略」（順不同）

学生に期待するもの

講義全体のキーワードである、「グローバル化とは何か?」、「グローバル化の中で日本は?」について理解し、大競争時代の事実認識についての強い関心と好奇心、グローバル時代にチャレンジするための備えに取り掛かることを期待します。



JAPIC会長
三村 明夫

Akio Mimura

新日鐵住金(株)
相談役名誉会長

主 催：神戸大学連携創造本部
サポート：神戸大学東京六甲クラブ



神戸大学研究推進部連携推進課
产学官連携グループ
連絡先電話番号 078-803-5427
E-mail ksui-sangaku@office.kobe-u.ac.jp

世界に挑む 産業界・官界・政界トップリーダーによる 連続リレー講座

開講テーマ

グローバル人材に不可欠な教養～社会基礎学～

開講日時

平成26年度後期 隔週土曜日 13:20～16:40(講義日は見開き面)

場所

鶴甲第1キャンパス K棟 K202教室

科目

全学共通授業科目／総合科目I(学部1,2年生対象)

基本
コンセプト

グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は?
学生は何を学び、何を身につけるべきか?

産業界・官界・政界のトップランナーがオムニバス形式で講義をします。
今、企業でどんな人材が求められているのか?学生に何を身に付けてほしいのか?
土曜の午後を、貴方のキャリアアップの時間に充ててください。



2014

連続リレー講義 平成26年度後期

第1回

10/4
(土)

リレー講義の意味・意義

高藪 裕三

JAPIC 専務理事・事務局長 筑波大学 顧問

【パネルディスカッション】

グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は?
学生は何を学び、何を身につけるべきか?

田邊 弘幸

パネリスト

双日(株) 顧問

◆プロフィール◆1968年日商岩井(株)入社。日商岩井・双日を通して、エネルギー・金属資源部門長・専務執行役員、代表取締役副社長・米州総支配人等を歴任。2011年双日(株)顧問に就任。その間米国留学、1998年大学院AMPを修了。日本創生会委員、三重県伊勢市出身。趣味:音楽鑑賞。室内樂を好む。最近なぜか男声合唱団に入団、呻吟を重ねながらもその魅力に取りつかれつつある。★本学出身者

難波 ひとみ

パネリスト

JAPIC 広報部主査

内田 一徳

パネリスト

神戸大学 理事・副学長

進藤 秀夫

パネリスト

東北大学 理事・産学連携担当

◆講義概要◆劇的に変化するグローバル化時代に活躍する人材に不可欠な教養、「社会基礎学」とは何か。この講義で学んで欲しいこと、学生に期待すること、この講義の意義と狙いを紹介する。合わせて、産業界等で活躍する講師たちの顔ぶれや講義プログラム等を紹介する。

◆プロフィール◆1968年新日本製鐵(株)(現新日鐵住金(株))入社。販売・開発部門を経て経営トップの財界活動補佐、政・官・財界、マスコミ等広く交流。2004年 JAPIC(民間企業会員37業種205社)入社。政策提言シンクタンク「日本創生委員会」企画・運営。本リレー講義主管。福岡県出身。趣味:囲碁、ピアノ演奏。学生時代:真面目な学生運動。

◆講義概要◆劇的に展開する世界のパラダイム・シフト。グローバル化とは、「大交流・大競争」そして「大混沌」であり、日本はその地球規模変動のど真ん中にいる。このリレー講義は、「社会基礎学」〜グローバル化の中の必須教養として、産業人等多分野のトップランナーが豊富な経験、知識を踏まえ、現在と将来を語り、学生と共に考える。

高藪 裕三

コーディネーター

JAPIC 専務理事・事務局長 筑波大学 顧問

◆プロフィール◆1968年新日本製鐵(株)(現新日鐵住金(株))入社。販売・開発部門を経て経営トップの財界活動補佐、政・官・財界、マスコミ等広く交流。2004年 JAPIC(民間企業会員37業種205社)入社。政策提言シンクタンク「日本創生委員会」企画・運営。本リレー講義主管。福岡県出身。趣味:囲碁、ピアノ演奏。学生時代:真面目な学生運動。

◆プロフィール◆1950年から京都市に在住。1980年農業工学博士課程修了。1977年京大農学部農業工学科助手、1984年同助教授。1994年神戸大学に異動、3ヶ月後に阪神淡路大震災を経験。1996年教授に昇任。2005年評議員、2009年農業研究科学会長(農学部長)を経て、2013年から理事・副学長。趣味:ゴルフ・ワイン・蕎麦打ち。★本学教員

エネルギー政策が大事な理由

◆講義概要◆エネルギー自給率に乏しい日本では、エネルギー政策が国民生活や産業活動に大きく影響する。そこで、エネルギー政策の重要性について、東日本大震災以降のエネルギー問題の変化、シェールガス開発や海洋開発等の国際動向等を踏まえつつ、足下から中長期のエネルギー政策のあり方を多角的に考える上で基礎知識を講義する。

藤原 幸則

(公社)関西経済連合会 理事

◆プロフィール◆1980年(株)三菱総合研究所入所、マクロ計量経済モデル分析に従事。その後、大学院(国際法、法学修士)を経て、1986年(社)関西経済連合会事務局 入局。同会では、エネルギー、環境、科学技術、経済財政、企業経営等に関する調査研究や政策提言とりまとめに従事。2010年より理事に就任。地球温暖化対策の国連会議COP12に2回参加。出身は大阪府、趣味は旅行・絵画鑑賞。

成長するためのインフラとは
(関西の成長が国益に大いに貢献する観点から)

◆講義概要◆インフラとは、国民福祉の向上と国民経済の発展に必要な公共施設を指すが、一般的には経済の下部構造を指す場合が多い。財・サービスの生産に貢献する資本という意味では、交通・情報通信、エネルギー、上下水道等であり、これらは狭義のインフラを構成する。これに教育・医療・福祉施設等を加えたのが広義のインフラであるが、今回は狭義のインフラの観点から関西の経済成長に寄与するためのインフラ再構築の戦略を考えてみる。

「次の、日本。」政治の責任と政策

◆講義概要◆グローバルかつ長期的視点からわが国の政治課題を直視し、日本の新たなフロンティア、急ぐべき政策を四半世紀の政治経験をもとに考える。

直嶋 正行

参議院議員 元経済産業大臣

◆プロフィール◆1971年トヨタ自動車販売(現トヨタ自動車株)入社。自動車総連副会長を経て1992年参議院議員初当選(現在4期)。民主党参議院幹事長、政調会長等を歴任。政権交代後の2009年経済産業大臣として初入閣。現在、民主党「エネルギー・総合調査会長」。大阪府池田市出身。趣味:読書、水泳。座右の銘:初心忘るべからず。★本学出身者

◆講義概要◆明治維新後150年。日清・日露戦争を経て第二次世界大戦、バブル、そして現在に至る日本の近現代史を産業からの視点を中心に概説する。加えて、現在における日本企業の強み・弱み、今後のあるべき姿を、国際競争力の視点を踏まえたうえで企業人の立場から論じる。

◆プロフィール◆1984年新日本製鐵(株)(現新日鐵住金(株))入社。経理、厚板・建材営業、プロジェクト開発各部門を経て2012年度よりJAPIC・政・官・財・学・マスコミ・NGO等幅広く交流。広島県出身。趣味:テニス、ゴルフ、読書。

◆講義概要◆これまでに開催された講義全体を振り返り、世界中の日本の位置づけを多面的に整理しながら、日本人の強みや弱み等の特性を考察する。また、学生それぞれが今後の専門分野で出会うグローバル化とそこで活動する場面を想定させる。

◆プロフィール◆1982年武田薬品工業(株)入社。生活習慣病治療薬の研究開発に従事。2006年より創薬研究所長および医薬研究本部長を務め、研究活動のグローバル化を推進。米、英およびシンガポールに枝研究所を設立。この間、日本バイオインダストリー協会や経済同友会等に参加。2014年から現職。埼玉県出身。学生時代はラグビー部。

★本学教員

第3回

11/1
(土)

震災復興の現状と課題

◆講義概要◆復旧から復興へ、将来にわたり持続可能なまちづくりに向けた釜石市の取り組みを語る。

野田 武則

釜石市長

◆プロフィール◆学校法人野田学園甲東幼稚園園長を経て、2003年に岩手県議会議員に初当選。2007年から現職。震災以後、釜石市の復旧・復興にあたるとともに、岩手県沿岸市町村復興期成同盟会の会長として被災した岩手県沿岸地域全体の復興に向けて活動中。趣味:合気道、居合道、愛犬との散歩。

◆講義概要◆「次の、日本。」政治の責任と政策

◆講義概要◆グローバルかつ長期的視点からわが国の政治課題を直視し、日本の新たなフロンティア、急ぐべき政策を四半世紀の政治経験をもとに考える。

◆講義概要◆明治維新後150年。日清・日露戦争を経て第二次世界大戦、バブル、そして現在に至る日本の近現代史を産業からの視点を中心に概説する。加えて、現在における日本企業の強み・弱み、今後のあるべき姿を、国際競争力の視点を踏まえたうえで企業人の立場から論じる。

◆プロフィール◆1984年新日本製鐵(株)(現新日鐵住金(株))入社。経理、厚板・建材営業、プロジェクト開発各部門を経て2012年度よりJAPIC・政・官・財・学・マスコミ・NGO等幅広く交流。広島県出身。趣味:テニス、ゴルフ、読書。

◆講義概要◆これまでに開催された講義全体を振り返り、世界中の日本の位置づけを多面的に整理しながら、日本人の強みや弱み等の特性を考察する。また、学生それぞれが今後の専門分野で出会うグローバル化とそこで活動する場面を想定させる。

◆プロフィール◆1982年武田薬品工業(株)入社。生活習慣病治療薬の研究開発に従事。2006年より創薬研究所長および医薬研究本部長を務め、研究活動のグローバル化を推進。米、英およびシンガポールに枝研究所を設立。この間、日本バイオインダストリー協会や経済同友会等に参加。2014年から現職。埼玉県出身。学生時代はラグビー部。

★本学教員

第4回

11/15
(土)

産業の近現代史

門脇 直哉

JAPIC 常務理事

◆講義概要◆明治維新後150年。日清・日露戦争を経て第二次世界大戦、バブル、そして現在に至る日本の近現代史を産業からの視点を中心に概説する。加えて、現在における日本企業の強み・弱み、今後のあるべき姿を、国際競争力の視点を踏まえたうえで企業人の立場から論じる。

◆プロフィール◆1984年新日本製鐵(株)(現新日鐵住金(株))入社。経理、厚板・建材営業、プロジェクト開発各部門を経て2012年度よりJAPIC・政・官・財・学・マスコミ・NGO等幅広く交流。広島県出身。趣味:テニス、ゴルフ、読書。

◆講義概要◆これまでに開催された講義全体を振り返り、世界中の日本の位置づけを多面的に整理しながら、日本人の強みや弱み等の特性を考察する。また、学生それぞれが今後の専門分野で出会うグローバル化とそこで活動する場面を想定させる。

◆プロフィール◆1982年武田薬品工業(株)入社。生活習慣病治療薬の研究開発に従事。2006年より創薬研究所長および医薬研究本部長を務め、研究活動のグローバル化を推進。米、英およびシンガポールに枝研究所を設立。この間、日本バイオインダストリー協会や経済同友会等に参加。2014年から現職。埼玉県出身。学生時代はラグビー部。

★本学教員

第4回

11/15
(土)

日本の安全保障環境と防衛政策

鈴木 敦夫

防衛省 大臣官房審議官

◆講義概要◆昨年12月に我が国最初の「国家安全保障戦略」とともに、新たな「防衛計画の大綱」が策定された。新興国の台頭により国家間のパワー・バランスが変化する中、我が国を取り巻く安全保障環境は一層厳しさを増している。これに対して、我が国の新しい安全保障・防衛政策はどう対応しようとしているのか。特別な軍事知識等は不要。時事問題を扱いながら分かり易く解説したい。

◆プロフィール◆1985年防衛庁入庁。総理府国際平和協力本部事務局参事官補佐、ミ国国防大学国家戦略研究所客員研究員、防衛局防衛政策課研究室長(兼)調査課情報室長、運用局運用課長、運用企画局国際協力課長、防衛政策局調査課長、防衛政策局防衛政策課長、大臣官房米軍再編調整官等を経て現職(いずれも当時の名称)。

第5回

11/29
(土)

現代の金融システム

吉村 隆

ゴールドマン・サックス証券(株) コンプライアンス部門統括 マネージングディレクター

第6回

12/6
(土)

日本の農林水産業

吉村 隆

◆講義概要◆金融は実体経済を支える一方で、実体経済に大きな影響も与える。今、世界的に見て、金融に何が起きているか概説する。

◆プロフィール◆1985年日本銀行入行。IMF出向、ニューヨーク事務所次長、政策委員会室企画役を経て、2007年ゴールドマン・サックス証券(株)の現職に就任。日本創生委員。趣味:旅行、オペラ、ゴルフ。座右の銘:天網恢恢疏にして漏らさず。

モノづくりを支える技術:工作機械とは

◆講義概要◆あらゆるモノづくりの根幹を支える技術でありながら一般の人の目にはあまり触れられることのない「工作機械=マザーマシン」とは何か、その歴史と経済成長との関わり、重要性等を解説。中小企業ながら、世界最大級のマザーマシンを手掛ける当社の納入実績等を紹介する。

本間 義朗

ホンマ・マシナリー(株) 代表取締役社長

◆プロフィール◆1983年本館金属工業(株)(現ホンマ・マシナリー(株))入社。米国留学、海外営業、総務、製造、管理部門等を経て1998年36才で代表取締役社長に就任。2008年現社名に変更。大阪府出身。趣味:スキー(14才から)、ドライブ(米国横断の経験有り)、座右の銘:沈着冷静。

◆講義概要◆あらゆるモノづくりの根幹を支える技術でありながら一般の人の目にはあまり触れられることのない「工作機械=マザーマシン」とは何か、その歴史と経済成長との関わり、重要性等を解説。中小企業ながら、世界最大級のマザーマシンを手掛ける当社の納入実績等を紹介する。

石川 貴之

(株)日建設計総合研究所 理事 上席研究員

◆プロフィール◆1987年(株)日建設計入社。京セラドーム周辺、なんばパークス開発等の大規模都市開発業務に従事。2008年より(株)日建設計総合研究所にて東アジアを中心とした低炭素都市業務に従事。近年は都市開発のパッケージ輸出の業務に関わることが多く、「日本の得意技とは何か?」を強く意識する日々を過ごす。山口県出身。バスケットボール選手。現在は週一のジム通いで体型維持。

◆講義概要◆21世紀に入り世界の警察官であることを放棄した米国、存在感を大幅に増した中国の存在、迷走する中東情勢、政治的にも不安定なアフリカ、等極めて流動的な世界情勢の中で日本は何処に活路を見出せば良いか。経済的にも中国を始めとする発展途上国への急速な成長は織り見せ始め、先進国との相対優位性が喧伝されている中で、国際間の競争は益々厳しさを増している。日本のるべき進路と生き残り策は如何に?

奥田 真弥

パネリスト